

様式第2号（第8条関係）

会議の概要報告																																					
1. 会議の名称	令和3年度 第1回 甲賀市青少年自然体験活動推進委員会																																				
2. 開催日時	令和3年10月21日(木) 18時00分～19時30分																																				
3. 開催場所	甲賀市甲南青少年活動センター 会議室																																				
4. 議題	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度甲賀市青少年自然体験活動振興計画に基づく事業実施状況及び今後の事業実施について ・甲賀市青少年活動セミナーの開催目的について 																																				
5. 公開又は非公開の別	公開																																				
6. 出席者	<p>《委員会委員》</p> <table border="0"> <tr> <td>ガールスカウト</td> <td>団委員長</td> <td>佐々木 美耶子</td> </tr> <tr> <td>ボーイスカウト</td> <td>団副委員長</td> <td>横川 正己</td> </tr> <tr> <td>甲賀市PTA連絡協議会</td> <td>副会長</td> <td>田中 充</td> </tr> <tr> <td>ボーイスカウト</td> <td>団委員長</td> <td>吉久 義則</td> </tr> <tr> <td>学校教育</td> <td>大野小学校校長</td> <td>山本 寛</td> </tr> <tr> <td>幼稚園・保育園</td> <td>保育幼稚園課</td> <td>野々山 弥生</td> </tr> <tr> <td>自然体験活動施設</td> <td>みなくち子どもの森</td> <td>小西 省吾</td> </tr> </table> <p>《事務局》</p> <table border="0"> <tr> <td>教育委員会事務局</td> <td>次長</td> <td>田村 勝也</td> </tr> <tr> <td>教育委員会事務局社会教育スポーツ課</td> <td>課長</td> <td>杉本 茂夫</td> </tr> <tr> <td>教育委員会事務局社会教育スポーツ課</td> <td>係長</td> <td>神山 貴昭</td> </tr> <tr> <td>教育委員会事務局社会教育スポーツ課</td> <td>主査</td> <td>竹村 淳史</td> </tr> <tr> <td>甲南青少年研修センター 青少年自然活動指導員</td> <td></td> <td>竹田 秀美</td> </tr> </table>	ガールスカウト	団委員長	佐々木 美耶子	ボーイスカウト	団副委員長	横川 正己	甲賀市PTA連絡協議会	副会長	田中 充	ボーイスカウト	団委員長	吉久 義則	学校教育	大野小学校校長	山本 寛	幼稚園・保育園	保育幼稚園課	野々山 弥生	自然体験活動施設	みなくち子どもの森	小西 省吾	教育委員会事務局	次長	田村 勝也	教育委員会事務局社会教育スポーツ課	課長	杉本 茂夫	教育委員会事務局社会教育スポーツ課	係長	神山 貴昭	教育委員会事務局社会教育スポーツ課	主査	竹村 淳史	甲南青少年研修センター 青少年自然活動指導員		竹田 秀美
ガールスカウト	団委員長	佐々木 美耶子																																			
ボーイスカウト	団副委員長	横川 正己																																			
甲賀市PTA連絡協議会	副会長	田中 充																																			
ボーイスカウト	団委員長	吉久 義則																																			
学校教育	大野小学校校長	山本 寛																																			
幼稚園・保育園	保育幼稚園課	野々山 弥生																																			
自然体験活動施設	みなくち子どもの森	小西 省吾																																			
教育委員会事務局	次長	田村 勝也																																			
教育委員会事務局社会教育スポーツ課	課長	杉本 茂夫																																			
教育委員会事務局社会教育スポーツ課	係長	神山 貴昭																																			
教育委員会事務局社会教育スポーツ課	主査	竹村 淳史																																			
甲南青少年研修センター 青少年自然活動指導員		竹田 秀美																																			
7. 傍聴者	0人																																				
8. 会議資料	資料1 甲賀市青少年自然体験活動推進委員会委員名簿 資料2 甲賀市附属機関の会議の公開等に関する指針 資料3 甲賀市青少年自然体験活動推進委員会規則 資料4 甲賀市青少年自然体験活動振興計画 資料5 令和3年度青少年自然体験活動事業一覧表 資料6 甲賀市青少年活動セミナー資料																																				
9. 議事の結果概要	1. 令和3年度甲賀市青少年自然体験活動振興計画に基づく事業実施状況及び今後の事業実施について 事務局：資料により説明の後、意見交換 2. 甲賀市青少年活動セミナーの開催目的について 事務局：資料により説明の後、意見交換																																				
10. その他																																					

「甲賀市青少年自然体験活動振興計画に基づく事業実施状況及び今後の事業実施について」意見交換

委員長：事務局の説明に対して、委員さんのご質問であったり、ご意見であったり、ご助言あるいは実際にそれぞれの立場での活動に絡めてのお話でも結構でございますので、ご自由にいただきたいと思っております。

ただ、大きな視点・細かな視点と色々あるかと思いますが、細かい部分的なご質問でも問題ございませんので自由に発言いただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

では、私から発言させていただきますが、青少年活動セミナーに実際に参加されている青年達はどのような感じでしょうか。思ったよりも多く来られたなど聞けたらと思います。

- 事務局： はい。先ほどもお話をさせていただきましたが18名います。実は、セミナーだけは参加するけれども野外活動は参加出来ないという方もいます。ただ、キャンプに携わっていただいている青年リーダー18名ですが、セミナーの受け止め方については今後どのように進めていったら良いのかが中々理解しづらいところもあります。
- しかし、甲賀市独自のもので、自分たちが野外活動を実施する上でどうしたら安全に出来るのを自分たちで探していく中で徐々に認識をしていただけたらと思っています。そういう流れの中で、令和4年7月31日に向けて、何回か実技と講義の両輪で進めていきます。青年リーダーの取り組む姿勢としては良いのではないかと受け止めています。
- 委員長： セミナーの参加者ですが大学生の方が多いとかはそういう部分はいかがですか。
- 事務局： はい。高校生が2人、大学生が2人、社会人が1人でした。
- 委員長： 大学生というのは、甲賀市在住の大学生でないといけないのか、また市外の方でも関わっていただけるという方でも良いのか、その辺りはどうですか。
- 事務局： はい。どこの出身であろうとも、甲賀市での野外活動をサポートいただける方であれば大歓迎です。
- 委員長： はい、ありがとうございます。
このような細かいことでも問題ございませんので、皆さんご自由に発言ください。
- 委員： よろしいでしょうか。
資料5「令和3年度青少年自然体験活動事業一覧表」の最後「市内の自然体験活動施設の活用と整備」と書かれていますが、甲賀市に合併する前の旧町時代にはキャンプ場があちらこちらにあったのですが、合併してからはほとんど休止している状態のままになっています。その辺りはどうでしょうか。今後このようにしようと思っていることがあれば教えてもらいたいです。
- もう既に世間一般的にキャンプがブームでありますから、勝手に入って来て「ここええぞ」と言って人集めたりもしていて、ほったらかしのままだと本当に勝手にやり出してどんどん進んでいくと思います。ものすごくロケーションが良いと思います。市内にキャンプに来て人が写真を撮って、それを他の人が見たら「どこですか、ここは」「本当にキャンプ出来るのですか」という反応がすぐにかえってくると思います。でも、キャンプ場の管理は実際のところ大変だと思います。そうであるからあのような状況になっているのだと思っています。
- 事務局： 現状でいいますと、岩尾池キャンプ場は閉めていますし、中々施設整備について手を伸ばしていくような状況ではございませんので難しいです。
- ただ、水ロススポーツの森については、全体の改修や整備構想をこれから考えていこうとしています。ロッジにしても中々古い状況でありますので、その辺りも含めて考えていきます。それでも今、結構車で来られている方がいますし、金額も安いですので、そういう部分で来られているのだと思っています。
- 委員： そうでしょう。たくさん集中されているでしょう。ゴールデンウィークから夏休みの間とか。
- 事務局： そうです、集中しています。
そういうところと、あと大原ダムも止まっていましたよね。

委員：　　そうです。あそこも最初の頃は私の方で管理してくださいという話がありました。最終的には閉めることになりましたが。

委員長：　　このテーマは昨年の委員会でも皆さんのご意見を聞いて議論をさせていただきましたが、中々教育委員会だけでというのは大変なので、やはりこれは甲賀市全体として考えていかないけない問題だと思います。また、先ほどもお話があったように、勝手に入って来られているという部分も含めてどう位置付けていくか考えることが大事かと思います。野洲川ダムの上流であるとか大原ダムのさらに奥に、そういうところを知っている人がどんどん入って行っておられる状況で、そこでも事故が起こらないとは限らないので市としてどうしていくか考えていくべきであると思います。

事務局：　　そうですね、検討させていただきます。

委員：　　実際、管理出来ていないところに入り込んで行かれるのは厳しいですね。

事務局：　　そうですね。綺麗なところを狙って来られて、地元からは苦情が来て「入らないでください」というような規制をかけているみたいな現状が続いているので、そういう整備をしていくことは必要かと思います。

委員：　　その辺りは青少年の自然体験だけではなく、大人も遊びでそういうところへ入って行きます。景色の良いところでバーベキューをして、たくさん持ち込んでそのまま放って帰られます。そういうこともあわせて何かを考えていければ良いと思います。

事務局：　　一時ファミリーキャンプがブームになって、かなり良質な設備が整っているキャンプ場が全国的に増えていきました。今はコロナ禍になってソロキャンプみたいなものが注目されるようになっていて、色々な考え方で色々な場所を提供出来るのかなと思います。その辺りは建設部と協議しておかないといけないところもありますので、検討させていただきます。

委員長：　　しつこいかもかもしれませんが、このような話は全国どこでも同じような問題が起こっていることであり、やはり四万十川での事故を起こしてしまった甲賀市としては、他所とは違うもの、きちんと管理もするし活用もするし教育に結び付けていくということを、甲賀市だからこそしなければいけないと強く思います。他にどうでしょうか。では、子ども会的なものも地域にあると思いますが、PTAの方でそういう活動について掴まれているのでしょうか。

委員：　　そうですね。PTAに来られる方がたまたま地区の代表で、子ども会の委員をされていたら情報が入ってくるというぐらいの感じです。子ども会について今は軒並み中止しているという話ばかりです。

委員長：　　では、小学校の現状として、子どもの地域活動について何か把握されていることはありますか。

委員：　　はい。夏期休業の時でもラジオ体操はどうしようかという話が出るぐらいですので、地域の子ども会で主催をされて何か事業をするという話はほとんど聞いていません。ただ、学校の方でも取り組んでいかないけないということもありますので、野洲川学習、3年生がお茶学習、4年生が森林学習など、本当なら地域の方と一緒に活動しながら体験を

取り入れているところではありますが、キャンプとか特に食べることについては全くしていないというのが現状です。

委員長： では、保育園の野外活動とかの情報は掴まれているでしょうか。

委員： そうですね。野外活動は本当に実施していないですが、保育園・幼稚園の子ども達は基本的に自然の中で身体をいっぱい動かして、その中で身体を使うのが不器用になってきている子どもがたくさんおられるので、自然の中で真っすぐではないところを走ったり登ったり掴んだり、そういう経験をいっぱいして欲しいと特に思っているのです。出来るだけ自然のある場所への散歩とかでそういう経験を積めると良いと思っています。やはり遠足とかも難しい現状でありますので、普段の遊びの中で自然に触れ合うということを経験してほしいと思っています。

お休みの時に家でバーベキューしたとかキャンプに行ったとかという話はたくさん園の方でも子ども達から聞いているので、各家庭ではそういう経験をしている子が増えているのかなと思っています。

委員長： その辺り教育施設のニーズを考えてみて、今までのこと・今後のことなどいかがでしょうか。

委員： はい。資料5「令和3年度青少年自然体験活動事業一覧表 (2) 自然体験活動に対する理解の促進 ②小さい頃から自然に接する機会の推進 みなくち子どもの森の運営」に団体の人数を記載しておりますが、主催する行事回数はほぼ予定通りしておりますが、実は参加人数を大幅に減らして実施しているのが現状です。1回10人とか15人とかで実施しています。

一方で、申込とか問合せをされる方はおられますので、野外に関する関心とか期待というのは感じていますが、それに応えられていないのが現状です。先ほどの資料の下の方に学校関係のことが書かれていますが、これはコロナ前の半分以下となっています。この結果をどう考えるかですが、過去には無理をして1日に2～3件ほど団体等を受け入れることもありましたが、今は団体1日1件で人数の上限を設けていますので、何件も断ってしまって心苦しい思いはしています。ただ一方で、校外学習は学校からすると野外だから許可が出たなどの話を耳にします。

それと、私の印象なのですが、個人が園内を散策されるのは増えているように思います。野外で少し歩けるというところが中々ないので、そういう期待はあるように思います。

委員長： ありがとうございます。

では、ボーイスカウトとガールスカウトは宿泊を伴う活動もしますので、今までは「みんなで一緒に、野外で食事作って、食べて、お話して、一緒にテントで寝て」というのが醍醐味でしたが、コロナの影響で全然ダメということになって、その辺の状況とかご苦労されていることとかありますでしょうか。

委員： そうですね。テントを立てて泊まることは出来ないのですが、休んでしまうとみんな忘れてしまうということがありますので、テント設営・撤営は今年も行いました。全員で協力しあうのがキャンプの指針の一つですが、食事も牛乳パックドッグを個々で作って、黙食するという活動を今はしています。

活動日があると、欲しているのか、今まで休みがちであった子どもの出席率は高いです。自然とは触れ合えなかったですけども、Zoomとかオンラインを使ってみんなでゲームしたりするのが一時流行りました。

委員長： その辺ボーイスカウトはいかがでしょうか。

委員： ガールスカウトもボーイスカウトも、プログラムそのものが年齢層で綺麗に線引きされています。現在私は一番下の子ども達、保育園の年長さんから小学2年生の夏までの子ども達をみているのですが、実際ほとんどキャンプをしません、出来ません。ボーイスカウトが行っているキャンプというのは小学5年生から中学生ぐらいが活動のメインなのです。それ以外の年代については実質的に無理です。出来ないことはないのですが、それをすると大人が手伝わないと出来ないのです。手伝って出来るキャンプというのは子ども達のキャンプではないのです。お客さんのキャンプなのです。家族にキャンプに連れてもらうキャンプと同じです。子ども達はキャンプをした気持ちになりますが、ボーイスカウトやガールスカウトの適用年齢の子ども達のキャンプをすると「しんどい」とみんなトラウマになると思います。

その中で、先ほど委員長がおっしゃっていたように、今までは仲間と一緒にやることで活動が成り立っていましたが、個別でやらざるを得ない状態がたくさん出てきていますし、ボーイスカウトの場合、高校生以上になると逆に仲間で作るといところからもっと個人でキャンプをするようになっていきます。年齢層によって活動の仕方が変わってきますが、仲間と一緒にやるということに対してコロナは非常に障害となりました。今年は補助金をいただけることになったので個人で使うテントを用意したのですけれども、一人でテント張って一人で寝ています。

委員長： ありがとうございます。

その部分についてニンニン忍者キャンプで、宿泊はないのでしょうか、食事などという風にされる計画を具体的に持っておられるのでしょうか。あるいはキャンプ協会ではこのようなことされているとか一例を教えてください。

事務局： はい。先週なのですが、キャンプ協会イベントを実施したのですが、ご飯は家族で作ったり、ゲームを家族単位で行ったり、テントも家族でたてたりと家族単位のキャンプをしてきました。そして、来月から始まる市の小学生のキャンプについては、グループごとに作業しますが、今までは5～6人で1班でしたが半分の3～4人で1班という形で実施する予定です。また、親子のキャンプについては、家族ごとのキャンプで焚き火台を使ってご飯を作ったり家族でゲームをしたりという形式で実施する予定です。

委員長： 家族はOKというのは致し方のないことですね。

事務局： そうですね。キャンプ協会では障がいのある子のキャンプを実施するのですが、その時は施設ごとのグループを作って実施します。

委員長： 皆様ありがとうございます。他に何かございましたらお願いします。

では、事例紹介として、今年ボーイスカウトで栗東の方でキャンプする機会があったのですが、マダニの被害が出てきました。マダニに気を付けるよう注意喚起をしていましたが噛まれていたということでした。今年はマダニが多いのか少ないのか分からないのですが、きちんと対応しようと思うと病院に行かないといけません。

あと、市内の人が他所に出て事故したり、他所の人が市内に入ってきて事故したりすることがあり、水の事故については今年も野洲川であったと思いますが、そのような事例を委員会として検証していかないといけないのではないかと考えています。

では議事を進めていきます。

「甲賀市青少年活動セミナーの開催目的について」意見交換

委員長： 各委員からのご質問・ご意見を、先ほどの事業に絡めた形でも問題ございませんので、どうぞよろしくお願い致します。
それでは、中々人が集まらなかった中で、今回人数的にもいけそうな気がするよう受け取っていますが、その辺事務局としてはどうでしょうか。

事務局： 実際に人が寄れる場所を作るのが中々難しいところがあり、開校式の時には青年リーダーやアドバイザーの方もおられましたが、中々寄れるところが無くZoomを使って実施など様々なことを考えています。ただ、Zoomだけでは色々な意見を中々汲み取りにくいところもありますので、対面が出来たらそれで良いのですが、両方を活用しながらやっていければと思っています。しかし、最初に思い描いていたものとは回数など違うものになってきていますが、コロナもだんだん落ち着いてきていますので、そのような手段も取りながら進めていこうと思っています。

委員： よろしいでしょうか。
青年リーダー18名のうち10名が昨年から引き続き来てくれているということを知ってもちろん嬉しいです。育ててくれているという気がしますので、これからも引き続き育てていってほしいなと思いました。

事務局： そして有り難いのは、以前にニンニン忍者キャンプに小学生の時とか中学生の時とかに参加していただいた方が青年リーダーとして参加いただいています。

委員： 参加しているだけだとずっと思っていたのですが、その実績がどんどん積み重なってきているというのは続けることに意味があるということですね。

事務局： 今までは「教えてもらっている」というのが次は「教える」というつながりが有り難いと思っています。

委員： それを聞いて嬉しかったです。

委員長： 他いかがでしょうか。ご自由にご発言いただければと思います。

委員： よろしいでしょうか。
今の時点ではなく、青年リーダー達が将来的に具体的に何を担ってくれたらいいなというイメージはありますか、出来る・出来ないは別として。
というのは、青少年自然体験活動推進委員会そのものが四万十川での事故をきっかけとして、事故を起こさないように安全な青少年活動にしようということで、最初の10年間は「安全誓いのつどい」を続けました。私も参加して事故について検証していましたが、「イベントにすると10年で終わる」という話をさせていただきましたが案の定でした。
事故のことを考えると思うのですが、そういうリスクのある子ども達と保護者は毎年新たに生まれるわけで、そのような方々に毎年どこかで啓発するとか気づいてもらう場が一つ欲しいです。最初に検証した時から言っていたことですが、そして、活発に活動を進めるためのスタッフとして青年リーダーがそういう部分を担ってくれたら良いなと思っています。だから、青年リーダーに「こんなことしてくれたら良いな」と思っていることがあるなら聞かせてほしいです。

事務局： 先ほどもお話させていただいたとおり、まず青年リーダーが自分のスキルを上げるというのが基礎になります。例えば、野外活動としましたら、どこら辺が危険であるというのを市独

自でマニュアル的なものを作り上げていこうと考えています。今もマニュアルはあるのですが分かりにくい難しい文言で書かれていて、今後それを簡単に分かりやすいものにしていきます。そして、市内の団体に「安全安心で甲賀市はこのような取組をしている」ということを情報共有出来たらと思っています。青少年活動セミナーで知識を入れキャンプで実技を磨きながら両輪で学んでいただいて、そういう基礎作りをした上でマニュアル作りをしていき、最終的には他の団体に情報交換が出来たら良いなと思っています。

委員： 期待しています。

事務局： 先ほども青年リーダーについて人が繋がってきて感動したというお話がありましたが、やはり教えてもらった子が「あのようなお兄さん・お姉さんになりたい」と思ってもらっている、良い意味でつながっていく連鎖が始まっているというところもあります。市の支援も当然必要ですが、以前研修していた中では、青年リーダーの中でもリーダー経験のある人が新任リーダーに教えているという流れも出来てきているので、その中で組織化がも一定作っていけると良いのかなとイメージ的に思っています。しっかりと組織をして何かするというのは中々難しいかと思いますが、そういうマネージャー的な部分から上手く繋がっていきけるような仕組みが作れると良いのかなと思っています。

委員長： その成果を発揮できるかというのは、今は中々難しいですね。

事務局： そうですね。何回か研修には来ては来てはいますが、いつ発揮させてあげられるのかなというところがありますが、それも近々事業としてさせていただきます。

委員： 私たちもガールスカウトをそういう風に育てていくために活動していますが中々難しいですね。大学生の間まではまだ来てくれたとしても、就職されると中々思うように活動してもらえないので困っています。

委員： 地元に戻って来ないですからね。

事務局： そうですね。就職されると途切れてしまいますので、そういうところをどうやって繋いでいくかというところもあります。

委員： これでもじっと我慢していたからこそ、10人も続けてやってくれているというところがあるのかと思います。

委員： 種をまいて芽が出てきている状態かと思います。

委員長： 他よろしいでしょうか。

委員： 先ほどのお話ではないですが、市内の子どもが他所に行って怪我をする、他所の子どもが市内で怪我をするということはどこに行っても起こりうるリスクであります。先ほどはマダニの話でしたが、少し飛躍するかもしれませんが、以前は北海道にしか無かったキツネ媒介の「エキノコックス」が本州に渡ってきてしまって、愛知県で感染例が出てきています。人間も感染すると5年10年してから発症し、酷いと死亡に至るような状態になります。そういうリスクがどこで広がってきているか分からないですし、ハチとかセアカゴケグモとかもあちこちで見つかっている状態になっていますし、市内にも入ってきているか分からないのが現状です。

委員長：

はい、ありがとうございます。

最後に一つだけよろしいでしょうか。セミナーもそうですけども、事業全体で見ますと、常に色々な団体で活躍している方の指導者の研修があったり、市民・一般の方でこれから学ぼうと活動に参加しようとする方の学びもあったり、そこらを含めて今までは年明けてから今井さんが講演をされていてと、そういう構造は必要だと思います。単に教育することではなく、青年リーダーを含めてなるべくみんなが学べる場というのがこれからはもっともっと必要になってくると思います。いっぱい重なっても問題ないと思いますので、環境を整えたりするのも当然大事なことですけれども、学べる場をもう少しボリュームがあっても良いのかなと思います。

今思っていることは、せめて市内のボーイスカウト・ガールスカウトの中でも自主的に指導者が勉強するであるなど、それに対して市が支援していくというのがあっても良いのかなと思っていますので、集合研修が良いのか資料提供が良いのかは分かりませんが、その辺をもっと実施しても今後良いのかなと思いましたので、よろしくをお願いします。

それでは次に進ませていただいてもよろしいでしょうか。

この委員会の今後の動きなどはどうですか。

事務局：

はい。コロナの状況で冬場になったらどうなるか分かりませんが、当初計画したものをできる範囲で無理なくやっていきたいと思っていますし、対面で集まるだけが全てではなくZ o o mを使いながら、停滞させるのではなくて少しでもできることを進めていきたいと思っています。その結果を来年2月頃に報告しご審議いただきたいと思っています。

委員長：

はい、ありがとうございます。

それでは、議事の進行を事務局へお返しします。